

ドファールの農業（新シリーズ）

第1回：オマーン・ドファール地域

これまでに何回か AAINews の中でドファールの報告をしてきたが、今回からドファール地域の農業の状況を5回に渡って報告する。内容は（1）ドファール地域の地形、気候、地域農牧業の特性、（2）サララ周辺での農業、（3）山岳（ジャバル）地域の畜産業、（4）ネジドでの遊牧と最近導入されつつある近代的農業、そして最後に（4）ドファールの農業の問題点・課題、および今後の展望（私感）、の予定です。

1) ドファール地域の地域的特性

オマーンの南部に位置するドファール地域は昔から北部のバティナ海岸地域とともにオマーンを代表する農業地帯となっている。これは当該地域がアラビア半島の先端に位置しながら7月から9月にかけてのモンスーンの影響で、他の周辺地域とは異なった気候特徴をもっているためである。

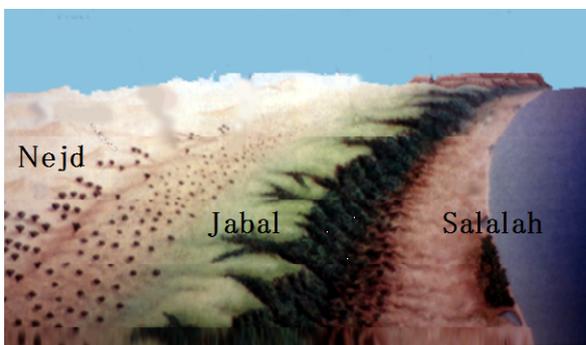
気象条件を比較してみると図のようにサララ、ジャバルでは夏期にモンスーンの影響で気温が下がる。ジャバルでは気温の低下とともに降水が集中する。これは湿った空気が南のインド洋側より吹き付け、ジャバルにぶつかり、雨となって降る。しかし、このモンスーンの影響は海岸から海岸平野の背後に位置する山脈で一変する。ジャバルの後背地である通称「ネジド」と呼ばれる地域では水分を失った空気がジャバルを越え、熱風となって吹き付ける。このため、強い風と乾燥高温が続く。このような気候変化は海岸からネジド地域（距離にして30 km程度しかない）まで非常に変化に富み、かつその自然環境を利用した農牧業が行われている。

2) 農業の地域的特徴

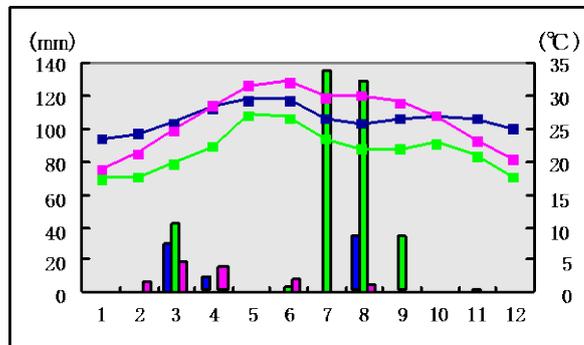
以上のような気象変化を利用して各地域ごとに分けると

- ・サララ海岸平野：モンスーン時の表層伏流水を利用した伝統的なココナツ、バナナなどのフルーツ類、野菜・牧草栽培。最近では大規模牧草栽培も盛ん。
- ・山岳地域：野生植生を利用した牛、山羊中心の伝統的牧畜業。
- ・ネジド地域：伝統的なラクダの遊牧。最近では深層地下水を利用した大規模牧草栽培。

サララ、ジャバル及びネジドではこれまでそれぞれ伝統的な農牧業が長い間行われて、現在もオマーンの代表的農牧業地帯として位置づけられてきた。しかし、これと同時に最近では近代的手法による農牧業が同時進行で、これまでの伝統的農業地帯に組み込まれつつある。この現状と課題について報告していく。



ドファール地域の地形



ドファール地域の気候

